



令和元年5月に行われた立川フラメンコ



立川南口すゞらん通り 商店街振興組合

(立川市)



モデル商店街となり、会員アンケートをもとに課題を把握 コロナ収束後の賑わい復活に邁進

「イベントのすゞらん」と呼ばれ 55年の歴史を紡ぐ商店街

JR立川駅南口から東に向かって230メートルほどのエリアが立川南口すゞらん通り商店街である。東京で初めてオリピックが行われた昭和39年、2つの商店街が合併して設立された。

組合への加入率は9割ほどで、

加盟する146店舗のうち、飲食店が約4割を占めている。「食

と音楽の商店街」をテーマに立川フラメンコをはじめ、まちゼミ、

立川南フェスタ、立川バル街、食楽祭など多彩なイベントを行っている。

五十嵐陸夫理事長は「立川市

内最大の会員数を誇る商店街で、

『イベントのすゞらん』と言われています。特に立川フラメンコは

500人の踊り手が道路を埋めつくすほどで、観客動員数は2万人にもなります。」と語る。

会員アンケートでわかった 商店街の課題

組合青年部は商店街リーダー実践力向上塾に第1回から参加しており、他の商店街の現状や新しい取組などを情報収集している。すゞらん通り商店街は他の商店街と同様に、年々人通りが少なく



吉沢寿夫 副理事長



岩崎秀樹 副理事長



五十嵐陸夫 理事長



布施明 監事



古屋善三 専務理事



粕谷京子 副理事長



冬の名物・イルミネーション



令和元年7月に行われた夏の食楽祭

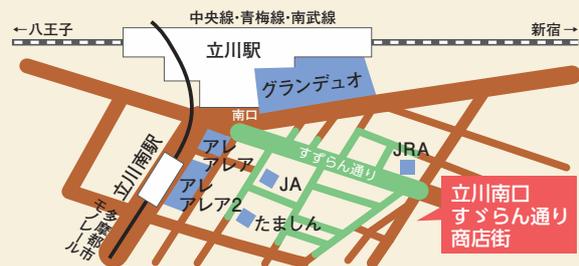
⑧ 立川南口すずらん通り商店街振興組合

店舗数 146 店舗

立川市商店街連合会内のサイト
<https://www.annex-tachikawa.com/suzuran/>

●活用した事業

商店街リーダー実践力向上塾、商店街パワーアップ作戦



なっている。どのようにしたら賑わいを戻せるのか、平成31年度の商店街リーダー実践力向上塾でモデル商店街となり、公社の専門家へアドバイスを求めた。

組合理事らと専門家による議論の結果、①理事に若手と女性が少ない、青年部の活動が見えない、②会員の声を聞く機会が少なく、イベントが理事中心の運営で会員の参加率が低い、③会員向けに情

報を提供したい、このような課題が挙げられた。

公社の専門家から、会員の組合に対する思いや要望を知ることが先決と言われ、早速会員アンケートを実施。回答率は9割を超え、商店街活動への関心の高さがわかった。

このアンケート結果を踏まえ、今後は、若手の理事を増員して、プロジェクトチームを結成し、活

躍の場を増やしていく。また、協力的な会員を商店街活動に巻き込み、商店街活動の参加率を上げていくことにした。

**コロナ禍の収束を願って
商店街の活気を取り戻す**

「分析結果を元に、改善プランを作り、具体的に実施していきたい。また、アンケートにあった少数意見も貴重な資料として耳を傾けて

いく。」と、理事らの意見も一致。また、商店街パワーアップ作戦を通して、ホームページの検証やキャッシュレス、軽減税率に対応するために商店街の会員向けにセミナーを実施した。

「一日も早いコロナの収束を願い、活気ある商店街を取り戻すために、力強く歩いていきたい。」と五十嵐理事長は意欲的に語った。